

地質調査所の

特別研究室・プロジェクトチーム・プロジェクト推進チーム

地質調査所では、複数の研究部にまたがる重要な研究課題を総合的かつ機動的に遂行するのに必要な連絡・調整などを行うため、上記の3つの新組織を設置しました。

特別研究室は、特に緊急に着手しなければならない重要な研究を推進することを目的としています。

プロジェクトチームは地質調査所の重点研究課題の、プロジェクト推進チームは将来重点研究課題になりえる基礎研究テーマの遂行に関して設置された所内組織です。

重点研究課題とは、産業・社会・学問的なニーズに対応した長期的かつ幅広い視野のもとに定められた当所の主要研究業務である地球科学に関する課題です。

活断層・地震予知特別研究室

平成7年1月に発生した兵庫県南部地震では、多くの人命が奪われ、建造物や各種インフラストラクチャーの損壊を始め経済活動も多大な影響を被りました。この地震は既存の活断層の活動によって発生したことから、活断層調査の一層の充実と、地震予知に関する研究プロジェクトの有機的な推進のため、設置されたものです。ここでは活断層の調査・研究、地震予知のための地下水観測、岩石破壊実験による地震発生過程の研究等の総合的な推進を図っています。

衣笠善博首席研究官が総括しています。

東アジア自然災害図プロジェクトチーム

アジア地域は自然災害が著しく、その軽減は緊急かつ必須の課題です。1990年代は国連の提唱する「国際防災10年」にあたり、地質調査所もこれに呼応して、東アジア地域の小縮尺自然災害図を、国際協力のもとに編さんすることを提案し準備を進めています。まず地質災害(地震・火山・地すべり・海岸侵食ほか)に焦点を絞り、データベースの構築・災害素因図や災害誘因図の編さんをもとに、災害発生の危険度を表示する地質災害図の作成をめざし

ています。

加藤碩一首席研究官が総括しています。

原子力地球科学プロジェクトチーム

原子力は地球環境への影響の小さいエネルギー資源であるといわれていますが、放射性廃棄物問題は避けて通ることのできない課題です。数千年以上にわたって有害とされる放射性廃棄物の地層処分のため、地下の物質移動のメカニズムや地質環境の長期安定性の研究を行っています。また、原子力施設の耐震安全性を高めるために、断層や岩盤の安定性とその調査法を高度化するための研究を行っています。

小出 仁環境地質部長が総括しています。

JUDGE プロジェクト推進チーム

JUDGE 計画(Japanese Ultradeep Drilling and Geoscientific Experiments; 日本列島における超深度掘削計画及びその坑井を利用した地球内部観測)は沈み込むプレートに達するボーリングを行い、さらにその孔を用いて様々な観測をしようという夢のプロジェクトです。プレート沈み込み帯の深さが約10 km と、現在の技術の改良で陸上から掘削できる世界唯一の場所である南関東地域がターゲットです。

浦辺徹郎実験鉱床課長が総括しています。

天然ガスハイドレートプロジェクト推進チーム

天然ガスハイドレートは、低温・高圧下で生成されるシャーベット状の新しいタイプの天然ガス資源で21世紀にその開発が期待されています。地質調査所ではその生成条件の解明のために研究室でガスハイドレートを実際に合成し、また、物理探査や海洋地質調査結果を用いて、天然ガスハイドレートの賦存状況の解明を図っています。

奥田義久燃料資源部長が総括しています。

(文責：加藤碩一、本文は地質調査所概要を元にして)